

【1次評価一覧】評価点一覧

【資料2】

1. システム運用状況に対する評価					
氏名 評価項目	温室効果 ガス排出量 エネルギー 使用量	廃棄物 紙資源 グリーン購入	エコオフィス 活動（共通の取組 み）	エコオフィス活動 （施設を管理の部署 の取組み）	内部監査
	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点
松波 淳也	3	3	4	4	3
奥 真美	2	2	4	4	3
斉藤 崇	2	2	4	4	3
須永 文雄	4	3	4	4	3
斎藤 之良	3	2	4	4	4
越智 尊恒	3	3	5	4	4
多久島 俊昭	4	4	4	4	4
小池 紀子	3	3	5	5	4
葉澤 則子	3	3	4	4	4
平均点	3.0	2.8	4.2	4.1	3.6
最高点	4	4	5	5	4
最低点	2	2	4	4	3

1. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

評価項目		1次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	目標達成状況 経年変化状況	3.0	(松波委員) 排出係数の変更がある場合の影響が大きすぎる。評価対象の変更が望ましい。 (奥委員) ○電気使用にとまなうCO2排出量は小売電気事業者の排出係数によって左右されてしまい、そこには市側の努力の余地がない状況となっている。 ○競争入札を導入している施設においては、環境省が示す排出係数の代替値未満の事業者であることを入札参加条件としているものの、契約時では落札事業者の排出係数が代替値未満であったとしても、後に落札事業者の当該年度の排出係数最新値が代替値を上回ってしまう結果となっているケースがみられる。こうしたケースを改善していくためには、環境配慮促進法のもので電力供給契約について導入されているように、契約時点での排出係数に加えて、未利用エネルギーの利用状況、再エネ導入状況等の要素の評価点と価格点とを総合評価するような仕組みを検討する必要があるのではないかと。少なくとも電源構成と再エネ導入状況は、事業者の排出係数を左右する重要な要素であるため、しっかりと見たほうがよいと思われる。 ○また、随意契約で電力調達してきた施設については、まずは代替値未満の事業者との契約締結を原則とするとするが(P11)、これは随意契約は継続することなのか、競争入札を導入することなのか記載からは判断しない。 ○P14に「市庁舎では、一部の車両燃料が天然ガスからガソリン・軽油に変更になった」とあるが、市としての車両更新計画のなかで次世代自動車への買換えといったCO2削減につながる車両の導入はどのように位置づけられているのか。 ○2017年度からは〇%減少しましたといった表現の部分は、「%」ではなく「ポイント」に修正したほうが良い。 (斉藤(崇)委員) ・電気使用量、都市ガス等使用量、灯油等使用量は減少しているが、温室効果ガス総排出量は前年より増えており、基準年と比較しても微減でしかない。都市ガス等は基準年よりも2割以上増えており、温室効果ガス排出の4分の1弱を占めている(図5)ことから、もう少し取り組みを進めていく必要があるように感じる。 (須永委員) 2021年度の目標数値とはまだ乖離があるが、電気やガス等のエネルギー使用量の削減を精力的に進めており、またCO2排出係数の低い電力会社と契約するなど、高い「温室効果ガス排出量の削減意識」を持ちながら進めている。 (斎藤(之)委員) 重要な課題でもあり、排出係数のコストベネフィットを考慮してもより改善すべきである。 (越智委員) エネルギー使用量の努力減少は認められるも、CO2排出量換算(排出係数高)による結果が残念である。削減目標はCO2数値ではあるが、市民へは使用量の削減をアピールしたほうが分かり易いと思われる。 (多久島委員) ・目標達成状況、全体として温室効果ガスの排出量は減少しており概ね評価出来る。 ・経年変化状況、前年度より効果を上げている状況なので継続して実施していく。 (小池委員) 目標達成、経年変化ということでは、なかなか劇的な進展はむずかしいようにおもわれる。 (葉澤委員) 施設の増加や工事などで、数字だけでは比較できないと思います。個別には評価できると思います。	4	2
	廃棄物・紙資源・グリーン購入	経年変化状況	2.8	(松波委員) 評価対象のデータ変更により、経年比較ができなくなったことは問題である。 (奥委員) ○P3に「「資源」の紙購入量および「グリーン購入達成率」は、2018年度から集計手法を変更したことから、比較評価することは適切ではありません。」とあるが、いかなる趣旨でどのように集計手法を変更したのかの説明を丁寧にすべきではないか。 ○新たな財務会計システムの導入により、基礎となるデータの集計方法が従来から変更になっている部分があるが、そうすると経年変化の把握や国・他自治体との比較が出来なくなるといった重大な問題が生じてしまう。いままら指摘しても致し方ないことではあるが、財務会計システム構築の際にこうした支障が生じないように配慮すべきであった。財務会計システムの導入には、EMSの運用成果を把握・検証するうえで、データ集計の効率化と労力の低減を図りつつ、正確かつ迅速なデータ収集を可能にするというメリットが期待されるところであるが、これまで把握できていたデータの一部分が抜け落ちてしまうという点については、EMSの運用実態の全体像を正確に把握できなくなってしまうことを意味する。欠落してしまうデータ(色紙等のコピー用紙以外の紙類、グリーン購入物品の数量)を継続的に把握する方法がないかどうか、検討すべきではないか。 ○そもそも新たな財務会計システムがいかなるものなのかを委員会においても紹介して欲しい。 (斉藤(崇)委員) ・集計手法変更のため、経年変化による評価が難しい。ただ廃棄物排出量が未計上施設のある状態で増加していること、再利用率も低下していること等から、さらなる取り組みが必要だろう。 ・小中学校のグリーン購入率が80%に達していない、調達にあたっての判断は各学校に任されているのか、あるいは市としての方針があってそれに基づいているのか。 (須永委員) 廃棄物量については特殊要因により増加しているものの、紙資源については、冊子の印刷数縮減やタブレットを使用した電子会議の普及などにより大きく削減されていることを評価したい。 なおグリーン購入については、集計単位が変更になった(数量から件数)ため、定量的な評価は難しいが、新システム導入により事務方の労力が軽減されるのであれば、今後も持続的に環境マネジメントシステムを継続していくには、望ましいと考える。 (斎藤(之)委員) 統計基準が変化してしまったため評価できない。 (越智委員) 今年度より新たな集計方法となり、過去との比較不可。継続して努めて頂きたいと思います。 (多久島委員) ・一般廃棄物と産業廃棄物の排出量とは別した資料で確認致したい。 ・紙資源の購入量、再利用の状況は概ね評価出来る。 ・グリーン購入達成率、目標に向かって取り組み、工夫は十分にうかがえる。 (小池委員) 指定管理施設における業者変更による設備入れ替えによって廃棄物が大量にでたとあったが、このあたりは、選定方法に工夫をすることによって、避けられるのではないかと考えた。紙資源、グリーン購入については、2018年から集計方法が変わったということで評価対象である「経年変化状況」は評価不能である。 (葉澤委員) システムの変更があるため比較できないが、個別では評価できる。今回から新たに数字をとって努力してほしい。	4

1. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

評価項目		1次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
エコ オフィ ス活 動（共 通の 取 組 み）		4.2	(松波委員) 概ねよいが、問題を抱えている項目もいくつかある。 (奥委員) ○P21の「低評価の要因・取組みの課題」の記載において、要因が十分に説明されていない部分がある。たとえば、「こまめに消灯することが徹底できなかった」、「複合機からの印刷使用枚数が、対前年度で若干増加(105%)してしまった」、「ごみの分別が不十分であり、特に教室での分別の啓発をしていきたい(学校での取組)」は、なぜそうした事態が生じたのかの要因が示されていない。特に学校でごみの分別が徹底されていないというのは、子どもたちに対する環境教育が十分になされていないのではないかと懸念を抱かせるものであるが、実際はどうか。 (斉藤(崇)委員) ・概ねよく出来ていると思う。 (須永委員) 昨年度に引き続き評価が高く、また昨年度の現地確認を踏まえると、評価する環境推進員は、概ね客観的な評価をしているものと考えられる。 (斎藤(之)委員) エコ活動が概ね根付いていると評価できる。今後は部門毎に細かいフォローが望まれる。 (越智委員) 全職場にて取り組みが実施されており評価できる。 (多久島委員) ・概ね評価出来る。具体的に細部に於いて計画、工夫が見られ効果を上げている。 (小池委員) 取り組みについては、継続し、工夫を重ねていることを評価したいと思う。 (葉澤委員) 普段から出来ることを実施しているのが評価できる。習慣化することが大切では。	5	4
	各職場における活動状況評価	4.1	(松波委員) 概ねよいが、問題を抱えている項目もいくつかある。 (奥委員) ○P21に、実施率が低かった項目は「昼休み時の照明消灯の実施、採光を利用した消灯の実施」だったとあるが、これらの項目は公共施設や教育施設において実施率が低い傾向がみられる。こうした施設においては、そもそもこれらの項目の徹底を図ろうとすること自体、困難もしくは不適切なのではないか。 (斉藤(崇)委員) ・各部署の取り組みについて、○から×になったところ、あるいは×から○になったところ、などどのような変化があったのかが分かったと良いように思う。 (須永委員) 一部未実施があるものの、概ね「エコオフィス」を意識し、施設を管理しているものと考えられる。 (斎藤(之)委員) (越智委員) 概ね評価できるが、実施可能な取り組みを徹底してもらいたい。 (多久島委員) ・それぞれの施設に於いて管理部署がエコオフィス活動を意識している活動は概ね評価出来る。 (小池委員) 施設の個々の状況の違いがある中で、それぞれができることを見つけて取り組んでいると思う。ただ、外から見て足りない点を提案していくことは必要と思われる。評価というよりは、外からの目ということで、参考にしてほしい。 (葉澤委員) 施設によっては低い数字になってしまう項目もあるようですが、改善できるように努力してほしい。	5	4
(施設を管理の部署の取り組み)					

1. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

評価項目		1次評価			
区分	評価対象(例)	平均点	評価意見	最高点	最低点
内部監査	監査内容 監査結果 是正対応	3.6	(松波委員) 不適合が出ていることは問題である。 (奥委員) 〇市として全部署共通の「2019年度 環境法令遵守チェックシート」を作成して、各部署で遵守状況の確認をするようにしたことは、昨年度からの前進である。 〇ただし、同チェックシートには、フロン排出抑制法、廃棄物処理法、PCB特措法、家電リサイクル法しか載っておらず、それ以外にも環境関連法令は多々あるはずである(例えば、エコアクション21地方公共団体向けガイドライン2009年版のP27参照)。 また、部署や施設ごとに適用法令は異なってくることから、今後は部署や施設の活動に応じた環境法令リストを部署や施設ごとに整備していく必要がある。たとえば、市民病院であれば毒劇法やPRTR法が重要な環境法令として考えられる。 〇内部環境監査において不適合となった3件のうち2件は、廃掃法で義務づけられているマニフェスト交付状況報告を怠っていたという法令違反の事案であり、担当者の認識不足では本来済まされない問題である。これら事案は氷山の一角であるかもしれず、他にも同様の違反が放置されていないか、改めて全庁的に確認すべきだと思う。 (斉藤(崇)委員) ・不適合の事例については、監査によって明らかになった部署だけでなく、監査対象となっていない部署についても認識不足とならないような取り組みが必要である。 (須永委員) 改善事項や不適合が散見されているが、その後のフォローアップ監査により速やかに改善されているほか、不適合が昨年度に対し大幅に減少していることについては評価したい。 (斎藤(之)委員) 適正に実施されていると認められる。引き続き現状のレベルを維持向上できるように継続してほしい。 (越智委員) コンプライアンスに関わる事項にはより充足したシステムを構築し、全施設共通として徹底して頂きたい。 (多久島委員) ・監査項目に記してある様に良く工夫検討されている。 ・監査項目によって監査員が指摘内容の妥当性を考慮して結果を出している。 ・是正対応は遅れる事なく対応している。 (小池委員) 是正が必要な施設が多かったことには正直驚いたが、改善されていることには評価したい。ただ、これを引き続き行っていくことが大切であるので、内部環境監査は今のペース、もしくはもっと件数を増やしていくのが望まれる。 (葉澤委員) 改善事項を実施する努力が見える。不適合箇所が改善されているので継続してほしい。	4	3